

- － 今晚は、過分なご紹介をありがとうございます。
- － 今宵、山本会長はじめ広島日米協会会員の皆様、ご一緒できる機会をいただき、ありがとうございます。
- － この休日は非常に特別な時期です。今宵皆様方とここで共に過ごし、ホリデーシーズンの豊かな多様性を共に楽しむことを名誉に思います。
- － 横浜での語学研修の後、今年の夏、在大阪米国総領事館に政治経済担当領事として着任しました。私は特に、関西/中国地方がいかにお祭りで楽しい所かを知り、わくわくしました。盆踊りからだんじり、クリスマス・イルミネーションに至るまで、素晴らしい6ヶ月をすごしました。
- － 2024年の最後の月に入り新年を迎えるにあたり、ここ数年の日米関係における進展を振り返り、未来に目をむけるようお勧めします。
- － 日米両国は、過去70有余年のどの時期よりも緊密に連携しています。
- － 今年4月、岸田前首相のワシントン公式訪問の際に、バイデン大統領が宣言したように、日米は今や「グローバルなパートナー」であり、共通の課題に取り組み、自由で開かれ、連結され、強靱で安全な世界を確保するために、あらゆる分野で協力しています。
- － このグローバル・パートナーシップと広島そのものが世界の舞台で輝いたのが、昨年広島で成功裏に開催されたG7首脳会議でした。
- － 安全保障問題では、日米はインド太平洋地域全体に複雑に組み合わさったつながりを強化しました。韓国やフィリピンとだけでなくオーストラリアやイギリスとの3か国間、そしてインドをはじめとするクアッド・パートナーシップ内の関わりも深めました。これらはすべて、近隣諸国に対する中国のいじめのような振る舞いを背景にしたものです。
- － 経済面では、日米は互いの経済に対する最大の投資国です。アメリカ南部のアラバマ州ハンツビルでは、マツダはトヨタとともにマツダ・トヨタ製造工場に23億ドルを投資しました。そしてここ中国地方でも、マイクロンの東広島半導体工場に数十億ドルを投資し、地域経済を支えています。
- － また、マイクロンと広島大学は、将来の課題を解決するための半導体研究開発の相互協力プログラム“UPWARDS for the Future”にも取り組んでいます。ちょうど先月、クーバス総領事は広島で開催された第3回UPWARDSミーティングに参加しました。マイクロン、東京エレクトロン、アメリカ国立科学財団が支援する11大学からなるこの重要なネットワークによる、最初の1年半の進展について話を聞きました。
- － また、人的交流の面では、広島平和記念公園とパールハーバー国立記念公園との姉妹公園協定により、ここ数ヶ月、太平洋を挟んだ兩岸の学生や市民が積極的に交流し、それぞれの経験を分かち合っています。
- － 今年8月、私は初めて広島を訪れ、エマニュエル大使とともに平和記念式典に参列した際、小学生の加藤晶（アキラ）さんと石丸優斗（ユウト）さんが“平和への誓い”を読み上げる姿に深い感銘を受けました。

ー 今年のノーベル平和賞を受賞された日本被団協の皆さんとともに、特に来年被爆 80 年が近づくとつれ、私たちは核兵器の脅威のない世界を目指して前進し続けなければならぬことを改めて認識させられました。

ー アキラさんとユウトさん、そしてすべての日米の子どもたちの中に、素晴らしい潜在性を体現しているのを見出します。だからこそ、日米グローバル・パートナーシップは不可欠なのです。なぜなら、日米は共に将来の世代の平和と繁栄の推進力となるからです。

ー そこで、今夜の広島日米協会に話を戻します。この部屋にいらっしゃる皆様、そして日本中のこうした部屋にいる方々が、日米の絆を深めることに尽力し、私たちの同盟関係を保証しているのです。

ー 2025 年に向けて、私たちが期待できることがいくつかあります。たとえば、2025 年大阪・関西万博の USA パビリオンについて、私たちは共にワクワクしています。万博主催者は 2800 万人もの来場者を見込んでいます。また、領事館が支援する新しいプログラムでは、日米韓の若者を来春広島に招き、平和のためにテクノロジーをどのように活用できるかを考えます。

ー 2025 年に向けたその他の計画は、まだ具体化していません。しかし、今宵ここにお集まりいただいた友人の皆様と共に、これからの 1 年、日米およびこの地域の平和と繁栄を引き続き前進させていくことができると、私は確信しています。

ー 今宵の機会に改めて感謝いたします。2025 年が平和で豊かな年でありますように！